



年末手当総決起集会開催！！



11月5日(火)国府津駅前駐輪場会議室にて小田原支部主催「年末手当総決起集会」を開催し、34名の仲間が参加しました。各支部でも同日開催し、要求満額回答に向けて集会をつくり出しました。

冒頭、小田原支部本柳執行委員長からは、「今回の年末手当交渉は24春闘において春闘と夏季手当の同時議論を会社から提案されて、年度決算が出される前に労使議論を行なってしまうとする会社の姿勢に対する怒りがある中でのスタートでした。経営状況は極めて好調。一方で物価は上がり続けて、特にお米の価格高騰は顕著で新米が出回った今でも下がらないのが現状です。職場では『3.7ヶ月要求でも低い、4ヶ月あっても良い』『経営好調であり妥当な要求』や『低額回答ではモチベーションが上がらない』といった声を聞いています。一人ひとりの考えを掴み取り、声を聞いていくことを今後も続けていく」と力強く挨拶されました。

集会では第1回交渉の議事録を読み合わせ、参加者と意見交換を行いました。

<参加者からの意見・感想>

- ・夏季手当(2.7ヶ月)が少なかったから年末手当に期待している人が多くいる。ボーナスは生活に直結している。夏季手当が抑えられたのは成績率で差をつけるためではないか？どこまで頑張れば良いの？
- ・会社は「社員と家族の幸福」と言うが、異動を言い渡されて家庭環境を訴えたが配慮されず社員を守らないことがよく分かった。コロナ禍では定期昇給もカットされており、そのことは忘れていない。
- ・若手は特に収入足りない。社友会がアンケートやっているが氏名・社員コードを入れたら本音が言えない。組合が本当の声を伝える必要がある。会社は社員の成長を訴えるが資格取得などにもお金かかる。人に投資！
- ・職場でメッセージ行動取り組んでいる。家族を養うにはお金がかかる。社員数が減少する中で、会社の施策はどんどん進み、現場は汗水流しているが、社員の努力に報いない会社には怒りを感じる。3.7ヶ月でも足りない。組合未加入の仲間とともに声をあげていく。
- ・会社は普段から「一層のコストダウン」と言うが、まだ全然使える設備の大幅な間内改良進めている。トイレの改修すらしないのにどうなっているのか。
- ・職場の若い子とボーナスの話になった。会社は昔から「先行き不透明とか言っているよ」と伝えたら「先行きを読むのが経営陣の仕事ではないのか？人が少ない中、頑張っているのに先行き不透明とか言うのはおかしい。定期昇給もカットされたし年間6ヶ月とか貰ったことない。出れば出るだけ欲しい」と切実に話していた。会社は増収増益なのだから、マイナスなことばかり強調しないで「うちの会社はもっと発展できるんだ！これだけ払うから頑張ろう！」みたいに言ってほしい。
- ・物価上昇、どれくらい上昇しているのか？根拠をもって会社のおかしさを伝えるべきだ。
- ・うちは一馬力の家庭。物価上昇でお昼のおにぎりが2つから1つに減った。最近は買い出しに行っても大きな米は買わないで、主食としてパスタになることが増えている。
- ・異動によって、通勤が遠くなり、手当も無くなり給料が明らかに減った。十分な手当が欲しい。